

旧八幡郵便局

1921 年に完成した旧八幡郵便局の建物は、アメリカ生まれの建築家、宣教師、実業家で、生涯の大半を近江八幡で過ごしたウィリアム・メレル・ヴォーリズ（1880-1964）の設計によるものである。この建物は 1961 年まで近江八幡市の郵便局として使用され、その後事務所、倉庫、店舗として使用された。数十年にわたり荒廃していたが、1997 年に設立された、建物の保存と修復を目的とした地元の NPO 法人「一粒の会」によって修復され、取り壊されていたアーチ型の玄関も復元された。現在、旧八幡郵便局はギャラリーやイベントスペースとして利用され、土日祝日の午前 11 時から午後 5 時まで一般公開されており、国の登録有形文化財でもある。

日本風とスペイン風のコロニアルスタイルを融合させたヴォーリズの折衷的なデザインは、その後の彼の作品に頻繁に取り入れられることになる。広々とした室内には窓が多く設けられ、新鮮な空気と陽光を取り込み、快適さと機能性を追求したヴォーリズのこだわりが感じられる。1 階には、郵便局の窓口、局長室と応接室、集配室、事務室がある。集配室は現在、小さなカフェになっている。2 階は、電話交換室として使われていた長方形の部屋と、夜勤時の仮眠室として使われていた小さな部屋から成っている。大きい方の部屋は、床下が防音や断熱のためおがくずや灰で埋め尽くされた。一方、天井の上や内壁の裏側には隙間があり、空気が循環して湿気による腐敗を防いでいる。